

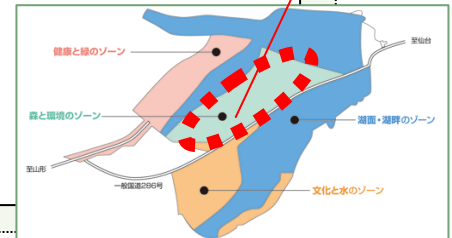


みちのく森の楽校だより 第2回

みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



5月9日（土）晴れ 春の里山体験

平成27年度の第2回「森の楽校」です。前回の第1回は、日程が学校行事や公園の大イベントと重なってしまい、参加された方が少なかったため、今日が実質的な初回となりました。新しい会員も多く、自己紹介から開始しました。これから1年間、さまざまな里山体験をしていきましょう！

タケノコ掘り

この里山には、スギ林と混じり合った竹林があります。ここの管理目標は竹林にすること。そのため、スギの劣勢木や枯損木を整理して、竹が生育するスペースを作っていきます。竹も古い竹は切り、タケノコも整理して、適正な密度にしていきます。

タケノコがぐんぐん生えてくるこの時期、放置しておくと、竹がどんどん増えて、密度が高くなりすぎてしまうのです。そのため、タケノコ掘りは、植生管理のために必要なことなのです。

ということで、今日の活動ではタケノコ掘りをしました。

ここの竹は、真竹。真竹は細工物・工芸品などに多く利用されます。一般に食用としているのはモウソウチク（孟宗竹）です。

昔からおにぎりなどを持ち運ぶ時に使ってきた竹の皮も、孟宗竹だけではなく、この真竹のもの。真竹の皮の表面には、孟宗竹のように細かな産毛のような毛が付いていないので、食べ物を包むのに向いているといえます。

真竹は、孟宗竹ほど太くない竹で、もともと根が浅いのです。タケノコも地面の深いところから生えてくるわけではありません。地上で見えているところだけをポキポキ折りながら収穫します。



飯盒炊飯

ご飯は飯盒炊飯。2号ずつのお米を研ぎ、水加減したあとは、細い枝や杉っ葉を集めて、火起こし。このところ、雨が降らないため、薪が乾燥していて、よく燃えました。



今日のお昼はタケノコ尽くし！飯盒で炊いたタケノコご飯、タケノコの味噌汁、タケノコの煮もの、焼きタケノコなど。掘ったばかりのタケノコは、アクも少ないのです。



木こり体験

里山管理の基本は、伐倒です。戦後に植林された過密傾向にある林で、劣勢木や枯損木の伐採を行います。

伐倒した材を活用して、ものづくりをしています。

ボランティアリーダーが、実際にやってみて、手順や注意事項を説明した後、実際に体験しました。



スギの皮むき

伐倒したら早めに皮を剥きます。この時期は水が上がっているため、皮がスルツときれいに剥けるのです。

